

**平成 27 年度  
(平成 26 年度対象)**

**教育委員会の  
点検・評価**

**壬生町教育委員会**

# 目 次

I 教育委員会評価の概要	P 1
II 教育委員会の活動	P 3
III 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性	P 4
1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する	
(1) 多様な学習活動の支援	
① 学習内容の充実（生涯学習課）	P 4
② 施設の整備・充実（生涯学習課）	P 6
③ 図書館サービスの充実（生涯学習課）	P 9
(2) 学習成果の地域社会への活用	
① 成果活用機会の充実（生涯学習課）	P 10
2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する	
(1) 文化遺産の保護・活用	
① 文化財の保護（生涯学習課）	P 12
(2) 地域伝統・歴史の再興・継承	
① 地域文化の継承（生涯学習課）	P 13
(3) 地域の歴史の再発見・発信	
① 地域歴史・文化の調査研究（生涯学習課）	P 14
3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する	
(1) 小・中学校教育の充実	
① 教育内容の充実（学校教育課）	P 15
② 特別支援教育の充実（学校教育課）	P 17
③ 教育環境の整備・充実（学校教育課）	P 18
④ 相談体制の充実（学校教育課）	P 20
⑤ 幅広い学びの充実（学校教育課）	P 21
(2) すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る	
(1) 生涯スポーツの普及促進	
① 人材・団体の育成（スポーツ振興課）	P 23
② 地域型スポーツの推進（スポーツ振興課）	P 24
③ スポーツ施設の充実（スポーツ振興課）	P 25
(2) 幅広い町民スポーツの振興	
① スポーツ参加機会の拡大（スポーツ振興課）	P 26
4. 青少年が健やかに育つ社会を実現する	
(1) 家庭教育の推進	
① 家庭教育の充実（生涯学習課）	P 27
(2) 青少年活動の推進	
① 青少年活動の充実（生涯学習課）	P 28
6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する	
(1) 男女共同参画の推進	
① 推進体制の整備（生涯学習課）	P 29
7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する	
(1) 国際理解の促進	
① 外国文化への理解の促進（学校教育課）	P 30
(2) 国際交流活動の推進	
① 交流活動の支援（学校教育課）	P 32

# I 教育委員会評価の概要

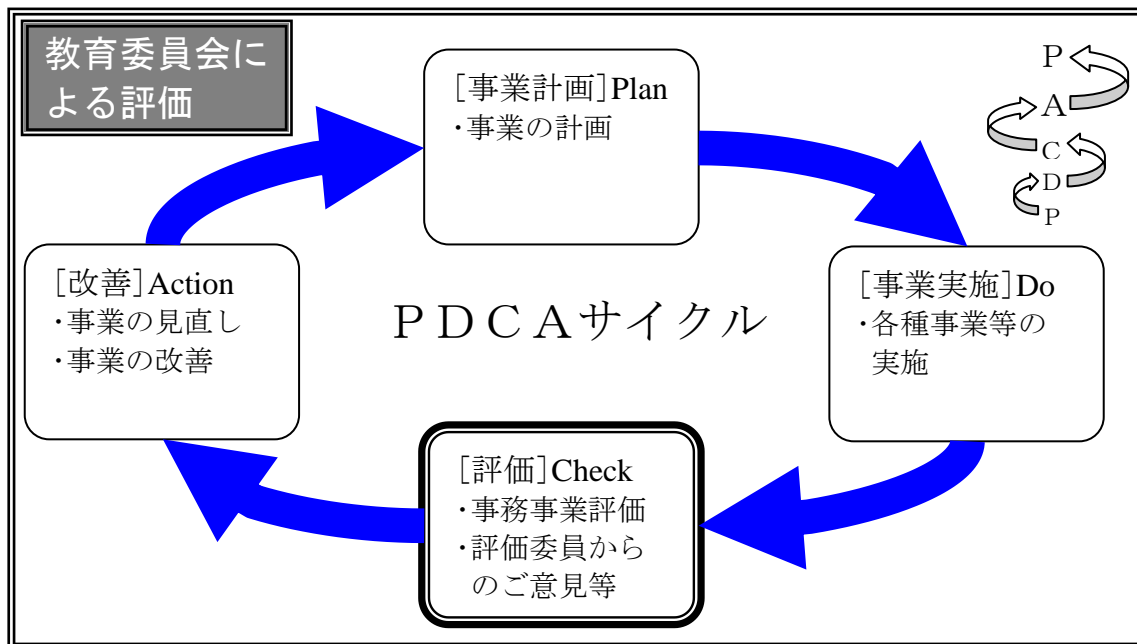
## 1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民へ公表するため、壬生町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋  
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)  
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。  
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ○評価のしくみ

教育委員会で行った自己評価と今後の対応方向を明示して、外部の方のご意見をいただきます。



## 2 評価の対象

平成18年度から平成27年度の町政運営の基本的方向を示した壬生町第5次総合振興計画～活力と創意が生きる 希望に満ちたまち みぶ～に基づき、7基本方針、13基本計画に分け、必要性・妥当性・効率性・有効性等の観点から主な施策の主要事業について、平成26年度の事業を点検し、評価を行いました。施策名称等は、次のとおりです。

### 3 施策の名称等

基本姿勢

## 個性が輝き文化が薫る、学びの社会を実現する

基本方針	基本計画	主な施策
1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する	(1)多様な学習活動の支援	①学習内容の充実 ②施設の整備・充実 ③図書館サービスの充実
	(2)学習成果の地域社会への活用	①成果活用機会の充実
2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する	(1)文化遺産の保護・活用	①文化財の保護
	(2)地域伝統・歴史の再興・継承	①地域文化の継承
	(3)地域の歴史の再発見・発信	①地域歴史・文化の調査研究
3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する	(1)小・中学校教育の充実	①教育内容の充実
		②特別支援教育の充実
		③教育環境の整備・充実
		④相談体制の充実
		⑤幅広い学びの充実
4. すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る	(1)生涯スポーツの普及促進	①人材・団体の育成
		②地域型スポーツの推進
		③スポーツ施設の充実
(2)幅広い町民スポーツの振興	①スポーツ参加機会の拡大	
5. 青少年が健やかに育つ社会を実現する	(1)家庭教育の推進	①家庭教育の充実
	(2)青少年活動の推進	①青少年活動の充実
6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する	(1)男女共同参画の推進	①推進体制の整備
7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する	(1)国際理解の促進	①外国文化への理解の促進
	(2)国際交流活動の推進	①交流活動の支援

## Ⅱ 教育委員会の活動

### 壬生町教育委員

職 名	氏 名	任 期
委員長	池 節 子	H26. 10. 1～H30. 9. 30
委員長職務代理者	藍 田 收	H25. 12. 23～H29. 12. 22
委 員	大久保 信 男	H24. 1. 22～H28. 1. 21
委 員	本 島 博 久	H24. 11. 1～H28. 10. 31
教育長	落 合 範 子	H25. 4. 2～H27. 3. 31

### 1. 教育委員会の活動

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

		平成25年度	平成26年度
開催回数	定例会	12	12
	臨時会	2	2
計		14	14
付議案件数	審 議	49	50
	報 告	28	41
計		77	91

#### (2) 平成26年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件 数
教育に関する一般方針について	4
教育財産の取得について	0
人事案件について	12
規則等の制定・改廃について	17
教育委員会の点検・評価について	1
その他	16
合 計	50

### 2. 教育委員会会議以外の活動状況

#### (1) 学校その他の教育施設等の視察

実 施 日	視 察 先
平成26年10月25日	壬生中学校 ・ 南犬飼中学校

#### (2) 教育委員の総会・研修会など

平成26年 5月16日 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会

平成26年 7月3日～4日 下都賀地区市町教育委員会連合会学事視察

平成26年 8月 1日 下都賀地区市町教育委員会連合会教育委員全体研修会

平成26年11月 5日 栃木県市町村教育委員会委員研修会

#### (3) 教育懇談会

平成26年11月21日 町PTA会長との懇談会

平成27年 3月 7日 社会教育委員との懇談会

### Ⅲ 主な施策ごとの事業概要、評価、方向性

#### 1. 潤いに満ちた生涯学習を振興する

##### (1)多様な学習活動の支援

各社会教育施設の適切な維持管理及び運営に努めるとともに、魅力ある学習事業の企画やイベント・鑑賞会などの開催、後援及び自主学習団体などの活動促進を図ります。

また、図書資料の充実とともに、町内の教育機関及び他市町施設との連携強化、インターネットの効果的な活用など、利用環境の整備を推進します。

##### ①学習内容の充実

###### ●主要事業

◇各種講座等開催事業（壬生中央公民館 991,770 円・稲葉地区公民館 321,594 円・南犬飼地区公民館 484,104 円）

###### <事業概要及び実施状況>

壬生中央公民館では、「トールペイント教室」「近代文学講座（昭和の文学）」「開花学級」等 10 講座、また、子ども向け講座として「夏休み子ども合唱講座」「子ども歴史体験教室」等の 2 講座、並びに、「昆虫展」を開催いたしました。

稲葉地区公民館では、「手作りパン教室」「さくら学級」「フラワーアレンジメント」等 8 講座を実施いたしました。

南犬飼地区公民館では、「おうちで居酒屋」「女性セミナー」「楽しい登山教室」等 12 講座を実施いたしました。

###### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
講座開催回数	教室、講座延開催回数	講座	256	201
講座受講者数	参加延べ人数	人	5,097	3,448

###### <評価と課題>

各公民館は、学習機会（生涯学習）提供の場として、町民等が求める講座等を開催し、地域のコミュニケーションづくりのうえで大きな役割を果たしています。

平成 26 年度は予算の関係で教室・講座の開催数を減らさざるを得ず、そのため参加延べ人数も減少してしまいました。

また年に一度、日頃の成果を発表する公民館まつりは、各団体による実行委員会により運営され、ステージ部門 26 団体、展示部門 20 団体、その他 6 団体が参加・出演し、多くの町民が参加しました。

###### <今後の方向性>

互いに町民が学びあい子どもから高齢者を含む幅広い世代の地域住民に合った講座等を開催し、継続的な生涯学習の支援を実施していきます。

◇各種講座等開催事業（北公民館 259,762 円）

###### <事業概要及び実施状況>

北公民館事業として住民の教養の向上、住民同士の交流を図るため、小学生を対象に珠算教室と習字教室を開催しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
珠算・習字教室開催数	延べ回数	回	40	40
珠算・習字教室参加者数	延べ人数	人	734	607

<評価と課題>

北公民館の珠算・習字教室はこれまで多くの小学生が教養の向上や交流する場として大きな役割を果たしてきました。しかし、民間事業者で珠算・習字教室を開催しており、行政が教室を開催していく必要性が低くなってきました。

<今後の方向性>

北公民館での珠算・習字教室については、民間事業者の教室を利用してもらうことで、平成 26 年度で廃止としました。

◇各種講座等開催事業(生涯学習館 1,866,674 円)

<事業概要及び実施状況>

生涯学習館では、「リトミック」「デューク更家式健康ウォーキングエクササイズ」「季節の手作り」「手作りソーセージ教室」など実用の 12 講座。IT 講座として「はじめてのパソコンからインターネットまで」「はじめてのワード文書作成」「ワード&エクセル お得なワンポイント」など、パソコン初心者向けの 6 講座を実施しました。

また、外部の団体に委託して実施している「子育て支援事業」には 366 組の親子、「生涯学習セミナー企画事業」には延べ 218 人が参加しました。

なお、例年 3 月第一日曜日に実施してきた「生涯学習館フェスティバル」(生涯学習館を中心に活動している自主団体の成果発表の場)は、町主催の「みぶの日フェア」と重なったため、2 月第四日曜日に開催日程を変更しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
講座開催回数	講座延べ開催回数	回	185	154
講座受講者数	参加延べ人数	人	1,446	876

<評価と課題>

26 年度は、事業費が前年の 60%に圧縮されたことにより、開講数と受講者数に大きな影響が見られます。限られた事業費の中で、町民の多様な興味やニーズ、時代を見据えた講座を開き、自主的な学習への継続的な支援が必要です。

<今後の方向性>

町民向けの学習講座は、中央公民館をはじめとする生涯学習関係の施設はもちろん、福祉関係の施設などでも実施されています。その中で、IT 講習のように、町内のどこの施設でも実施していない、生涯学習館としての特色や独自性のある講座を実施。町民の学習意欲や施設の利用向上を図ってまいります。

＜評価委員の意見＞

- 子育て支援事業は、とても重要な事業だと思います。
- 貴重な事業をうまく誘導していけば、施設を利用される率も高くなるので、今後連携について努力してください。
- 事業名のところに決算額が記入しており、費用対効果を見るうえで発想の転換として非常に良いことだと思います。

②施設の整備・充実

●主要事業

◇中央公民館改修等工事（110,311,200円）

＜事業概要及び実施状況＞

中央公民館の利用は高齢者が多く、また会議室等も2階にあるため、階段しか利用できなく不便のため、エレベーター設置工事を実施しました。

また大ホール舞台照明及び機構設備等は建築以来29年経過しているため、3期に分けて改修する予定です。平成26年度は、第1期といたしまして、大ホール舞台機構電気設備等改修工事を実施しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
利用者数	中央公民館延べ利用者数	人	85,397	73,417

＜評価と課題＞

エレベーターの設置により、利用者（高齢者・荷物の搬入等）の2階への利用がし易くなりました。

大ホール舞台機構電気設備等改修工事により、舞台機構設備分につきましては安全を確保することができましたが、残り照明・機構設備等（2・3期分）につきましても順次更新を図って行きたい。

また、工事期間中は大ホール等の利用ができなくなるため、利用者数は減少してしまう。なるべく早期に各工事を完了させ、利用者増を目指したい。

＜今後の方向性＞

大・中ホールの舞台照明・機構等の利用環境の向上を目指して、計画的な更新・改修を行い、町民等が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を目指します。

◇稲葉地区公民館改修等工事（25,326,000円）

＜事業概要及び実施状況＞

稲葉地区公民館は避難所になっているため、平成26年度におきまして太陽光発電装置設置工事を実施いたしました。



<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
利用者数	稲葉地区公民館延べ利用者数	人	5,172	4,888

<評価と課題>

太陽光発電装置設置工事により、非常時の臨時電源及び照明の確保がなされました。また、太陽光パネルを屋上に設置いたしましたので、建築以来そのままであった屋上の防水工事も併せて実施いたしました。

<今後の方向性>

稲葉地区公民館の利用環境の向上を目指して、適時に修繕・改修等を行い、町民が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を目指します。

◇南犬飼地区公民館改修等工事（14,590,800円）

<事業概要及び実施状況>

南犬飼地区公民館は避難所になっているため、平成26年度におきまして太陽光発電設備設置工事を実施いたしました。

また、平成25年度事業にて南犬飼地区公民館分館ロビーを改修し、平成26年4月5日に「まちかど文庫」をオープンいたしました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
利用者数	南犬飼地区公民館延べ利用者数	人	18,664	17,516
まちかど文庫利用者数	入館者数	人	—	2,147
まちかど文庫利用者数	貸出者数	人	—	811
まちかど文庫利用者数	貸出冊数	人	—	1,943

<評価と課題>

太陽光発電設備設置工事により、非常時の臨時電源及び照明の確保がなされました。

「まちかど文庫」は、主に中学校までの児童・生徒を対象とし、地域の小さな図書館的役割をはたすべく開設しましたが、利用者はまだ少ない状況です。

<今後の方向性>

南犬飼地区公民館・分館の利用環境の向上を目指して、適時に修繕・改修等を行い、町民が安全で快適に利用できるよう利便性の向上を目指します。

まちかど文庫は開設して1年程度のため、広報・イベント等により周知し、利用向上を目指します。

◇ふれあい広場改修等工事(8,208,000円)

<事業概要及び実施状況>

平成26年度については、宿泊棟内部の改修工事を実施しました。

まず、宿泊棟ロビーや通路に県産材を利用した腰壁等を設置して、木の香りのする人に優しい施設になるように改修工事を実施しました。また、雨漏りで見え変化したロビーの天井や壁を改修するため、塗装工事を実施しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
利用者数	ふれあい広場延べ利用者数	人	11,362	9,584

<評価と課題>

施設の改修工事を実施しているために、宿泊棟の利用を一時制限せざるを得なかったため、利用者数が減少することとなったと思われます。しかし、改修工事を実施することにより、利用者の利便性の向上や快適性の向上が図られました。

改修工事の実施に際して、一時的ではありますが、施設の利用を制限せざるを得ないことが課題であります。

<今後の方向性>

今後も修繕、改修工事が必要になっていきますが、優先順位を付け計画的な整備に努め、利用制限の期間をできるだけ、短期間で実施するよう努めていきます。

◇自治公民館建設事業(14,990,000円)

<事業概要及び実施状況>

自治会公民館は、自治会活動及び円滑な地域交流の拠点として重要なものがあります。地域の方々が主体的に活動する自治会公民館の利便性を図るため、新築、増改築及び修繕等を行う場合の費用の一部を補助しています。本制度は平成23年度より補助金額の拡充を図り、平成26年度は六美町南部自治会、西高野自治会、上町自治会の公民館改修に補助しました。

補助率、補助金額等は以下のとおりです。

- ①新築の場合 補助率30%上限300万円
- ②増改築の場合 補助率30%上限200万円
- ③修繕(設備整備を含む) 補助率50%上限200万円、ただし20万円以上の事業費が対象
- ④コミュニティーセンター事業の場合 対象経費の5分の3以内 上限1,500万円

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
自治会公民館建設数	新築補助件数	件	0	1
自治会公民館改修数	改修等補助件数	件	3	2

<評価と課題>

自治会公民館の建設、改修等の補助金は年度当初に行政協力員(自治会長)の会議で毎年周知しています。制度改正以降、改修の問合せや利用団体が増加していますので、本制度が浸透しているものと考えております。

自治会公民館は、老朽化しているところが多数ありますので、修繕または、新築等は、今後、増加することが予想されます。

<今後の方向性>

行政協力員(自治会長)の会議等で、自治公民館の整備等補助金の周知に努めます。また、中期的な公民館整備の意向を確認しつつ、自治会活動及び円滑な地域交流の拠点整備を支援して参ります。

<評価委員の意見>

- ハザードマップとの関連で、周辺の水はけや地震による危険な場所の検討を、周辺も踏まえて安全性を見直ししてください。
- 避難所は公民館拠点となるので、防災訓練をしているならば、やっている数字があれば示しておいた方が良いでしょう。
- 防災訓練の実施を計画されると、防災の効果が上がると思うので、検討してください。

③図書館サービスの充実

●主要事業

◇図書等購入事業 (6,387,843 円)

<事業概要及び実施状況>

図書や雑誌等の活字資料、DVDやCD等の視聴覚資料など、町民の学習や娯楽、日常生活の課題解決に供する資料を収集、整理し、町民共有の財産として保存していくことが図書館の役割です。

[貸出件数]

	一般書	児童書	郷土資料	参考資料	城	漫画	雑誌	CD	DVD	ビデオ	その他
H25	61,247	85,882	90	76	127	9,270	5,775	6,755	7,622	1,056	6
H26	62,614	87,613	89	54	167	8,516	6,267	6,496	6,983	816	0

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
年間購入資料点数	1 年間の購入資料の点数	点	3,568	4,294
年間館外貸出点数	1 年間の貸出の点数	点	177,910	179,624

<評価と課題>

平成 26 年度の年間購入資料点数が、平成 25 年度より増加した主な理由は、高額な資料(住宅地図等)の更新がなかったため、例年どおりの購入が出来たことによります。また、図書購入のためにとの寄付もありました。限られた予

算の中で、今後とも、町民が利用したくなる図書等の充実のために効果的な図書の購入に努めていきます。

#### <今後の方向性>

平成27年度から図書館の指定管理者制度導入し、開館日数や時間が増えるなどサービスの質の向上が図られています。今後、利便性を増した図書館では、利用者や貸出件数の増加が見込めます。また、図書等購入事業については、指定管理者制度を導入後も、町教育委員会が購入する図書の選定に参与し、公平性や公共性の確保に努めて、町民の利用動向を踏まえながら魅力ある図書等の収集に努めて行きます。

#### ◇移動図書館運営事業（189,778円）

##### <事業概要及び実施状況>

図書館から遠い地域の町民に対して実施する「全域サービス」の中核を担う事業です。各小学校区に最低1カ所として町内9カ所にサービスポイントを設け、毎月1回の巡回間隔で実施しています。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
個人貸出点数（年間）	1年間の個人貸出の点数	点	29,598	27,589
学校貸出点数（年間）	1年間の学校への貸出の点数	点	21,809	23,400

##### <評価と課題>

児童へのサービスを第一に考え、事業実施の当初から駐車ポイントは各小学校に設定しています。児童が本と親しむ環境の維持には成果が得られていると考えます。

##### <今後の方向性>

移動図書館車の老朽化により、使用ができなくなる可能性がありますので、今後は、代替サービスの検討をして参ります。

##### <評価委員の意見>

- DVDの借り方が煩雑なので、借り方の改善を検討していただきたい。
- 移動図書館車の利用を児童は、たいへん楽しみにしています。代替サービスの検討に当たっては、子どもたちの気持ちに配慮していただきたい。

#### (2)学習成果の地域社会への活用

施設利用者が、生涯学習事業や自主学習などで身につけた技量・成果を、学校・職場など地域社会における文化活動に還元できるように支援します。さらに、各種団体やサークルの結成や活動を支援し、心豊かなまちづくりを推進します。

##### ①成果活用機会の充実

###### ●主要事業

##### ◇学校地域支援ボランティア推進事業（599,094円）

### <事業概要及び実施状況>

本事業は、「学校の教育活動」における支援を目的とした「学校支援ボランティア推進事業」と、「地域社会での活動」における支援を目的とした「地域支援ボランティア推進事業」で構成されています。

「学校支援ボランティア推進事業」は、伝統芸能指導や読み聞かせ等の活動をする「ゲストティーチャー活動」、授業補助や校外学習の引率等の活動をする「学習アシスタント活動」、植木の剪定や校舎内修繕等の活動をする「施設メンテナー活動」、スクールガードなどの活動をする「環境サポーター活動」があり、ボランティアの活動に伴うケガ等を補償するためにボランティア保険に加入しています。

「地域支援ボランティア推進事業」は、土曜日の小学校体育館を会場に地域住民と子どもたちが一緒に活動する「子ども遊び学び塾」、中学生に勉強を教えたい地域住民と中学生を教えてもらいたい中学生とのつながりの場を創出する「放課後学習サポート活動」、地域行事等において、中学生と地域住民が一体となったまちづくりを推進する「中学生の地域活動推進活動」があります。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 度	平成 26 度
学校地域支援ボランティア登録者数	各小中学校及び生涯学習課への登録者延べ人数	人	566	514

### <評価と課題>

学校支援ボランティア推進事業では、平成 26 年度も多く地域住民が本事業に関わり、地域の教育力を学校教育活動の中に生かすことができました。

また、「スクールガード」については、今市事件から数年が経過し、見守りの重要性が薄れ、平成 26 年度のスクールガードの登録人数は、最も多かった平成 18 年度の 404 名から半数以下の 198 名に減少しましたので、平成 27 年度には、行政協力員（自治会長）の会議において、**学校地域支援ボランティア推進事業の説明を実施し、本事業の啓発に努めています。**

「放課後学習サポート事業」において、参加した生徒とその保護者を対象にアンケート調査を初めて行ったところ、家庭環境に何らかの問題を抱えた生徒が参加している実態や、そういった生徒にとっては本事業が貴重な学習の時間となっていることなどが明らかになりました。

### <今後の方向性>

地域支援ボランティア推進事業では、子どもたちを地域全体で育もうとする気運をより一層高めていくように事業の周知に努めていきます。

## 2. 歴史・伝統を学び、新たな文化を創造する

### (1)文化遺産の保護・活用

貴重な文化財の保護を図るため、町内に残る史跡や天然記念物などの調査・研究を行うとともに、資料などの整備を進めます。

また、町内の史跡や古墳等を周遊・散策できる文化財めぐりルートの整備や史跡公園の整備を推進します。

さらに、国指定古墳の公有化を進め、文化財の保護に努めます。

### ①文化財の保護

#### ●主要事業

◇埋蔵文化財発掘調査事業（4,442,000円）

#### <事業概要及び実施状況>

町道新設工事に伴い北原B遺跡の試掘調査を行なうと共に、民間開発に伴い提出された発掘届出にもとづき、15件の立会い調査及び試掘調査を行いました。平成23年に、宅地造成工事に伴い行われた壬生城東郭址の埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行し、調査状況の公開に努めています。

町内に存する5基の国指定史跡古墳の保存管理計画書を策定するための発掘調査を本年度から開始しました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
発掘届出の受理件数(民間)	遺跡の保護を把握する	件	30	30
国指定史跡の調査件数	調査を実施した古墳	件	0	1

#### <評価と課題>

平成26年度は前年度同様、個人住宅建設及び赤土採取工事に伴う発掘届出がほとんどでした。今後も赤土採取工事等は増加すると考えられます。遺跡の有無に関する問い合わせ件数も増えていることから、開発側に対する遺跡の周知は図られていると考えます。平成25年度「壬生古墳群調査整備委員会」を設置し、平成26年度からは、史跡車塚古墳の発掘調査を開始しました。

#### <今後の方向性>

遺跡の周知徹底を図るため、遺跡地図をホームページ等に掲載することも考えていく必要があります。

保存管理計画書の策定に伴う発掘調査は、壬生古墳群調査整備委員会の指導のもと慎重に進めていくことが望ましいと考えます。

◇文化財保護管理事業(2,069,000円)

#### <事業概要及び実施状況>

町内に存する国史跡4箇所、県史跡1箇所の等の除草を行い、史跡地の維持管理に努めています。また車塚古墳の枯損木の伐採事業を継続的に行い、史跡見学者の安全を図りました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
指定文化財件数	国・県・町指定文化財の数	件	66	66

### <評価と課題>

新たに指定される文化財はありませんでした。町指定文化財の保存・改修に関わる補助制度の導入が必要となってくると考えられます。

### <今後の方向性>

国の史跡地については、愛宕塚古墳・牛塚古墳・車塚古墳と適切な維持管理ができておりこの状態を継続することが望ましいと考えます。補助制度の導入については、早急な導入が望まれます。活用にあたっては栃木県及び民間の補助制度を活用することが望ましいと考えます。

## ◇文化財案内板整備事業(488,160円)

### <事業概要及び実施状況>

文化財の普及啓蒙の一端を担うことを目的に、町内に所在する国・県指定史跡をはじめ、地域に伝わる伝承の地に案内板を設置しています。本年度は県指定史跡の富士山古墳の案内板を立て替えました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
案内板設置数	案内板設置延べ数	件	37	37

### <評価と課題>

案内板設置事業については、指定地以外にも設置しているため壬生の伝説の地を訪れる町外の方にも好評を得ています。また古墳については、最新の発掘調査の成果が掲載できるよう、表面のフィルムの差し替えで案内板が更新できるよう工夫しています。

### <今後の方向性>

案内板設置については、平成25年度から栃木県の新たな補助制度が導入されたため、これらの制度を活用し町の負担分の軽減に努めていきます。

### <評価委員の意見>

○歴史の遺産が壬生町にたくさんあり、いろいろな事業が新聞等で報道されていることは良いことと思います。そこで、文化財と観光事業とのコラボということも考えてやっていただければ、もっと壬生町が他の市町へのアピールになるのではないかと思います。

## (2)地域伝統・歴史の再興・継承

地域に伝わる文化遺産の調査・研究を行うとともに、歴史民俗資料館において郷土の文化遺産の再興と伝承を行い、失われていく「かんぴょう」などの民俗資料の収集及び保護に努めます。

### ①地域文化の継承

#### ●主要事業

◇文化財保護管理事業・町指定無形民俗文化財等補助金(1,308,000円)

<事業概要及び実施状況>

町指定無形民俗文化財保存会 14 団体への補助を行い、貴重な文化遺産の伝承に努めました。平成 26 年度は下馬木五段囃子保存会にご協力をいただき、無形民俗文化財の公開事業を行ないました。栃木県からの補助を受け昨年度に続き、かんぴょう生産用具の収集及び資料の図面化作業を行ないました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
干瓢生産用具の数	年度別受入数	件	1	1
保存回数・15 団体	補助金活用団体数	団体	14	14

<評価と課題>

干瓢生産用具の収集については、下野市・壬生町とも受入数は減少しました。収集事業については、震災後の建物建替えにより生産用具も多くが破棄されたものと考えられます。現在収集済の資料の図化作業に努めます。

無形民俗文化財保存会については、各流派を超えた技術の伝承を図ることが、お囃子等の伝承には不可欠と考え、各団体間の協力体制をつくるための連絡協議会を設置する準備を始めています。

<今後の方向性>

後継者が不足している団体については、後継者の育成が成功している団体から援助を受け、育成事業を活発化します。また地域間の枠を超え、流派を超えた団体の統合も考える必要はあると考えます。

(3)地域の歴史の再発見・発信

地域の歴史について調査・研究を行い、その結果を企画展や講座などで発表し、住民が地域に愛着と誇りをもてるように啓発に努めます。

①地域歴史・文化の調査研究

●主要事業

◇企画展開催事業(3,079,201 円)

<事業概要及び実施状況>

「郷土の偉人顕彰作業」を掲げ「人となりや業績」を題材とした企画展等の開催を通して、郷土文化の再認識と意識の高揚を図っています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
企画展入館者	入館者延べ数	人	1,913	3,729
企画展講演会	聴講者	人	92	160

<評価と課題>



四館共同企画展「幕末動乱」は、幕末では注目されることが少ない、江戸周辺の動向に焦点を当てることができました。なお、遠距離の四館(土浦市・日野市・壬生町・板橋区)が連携し共同歩調をとる難しさを知りました。また、「粋を染める」展では高久空木の粋を尽くした染色工芸は観衆を魅了しました。

<今後の方向性>

継続的に「郷土の偉人顕彰作業」を行い、全国に“学問の府・壬生”を発信していきたいと思えます。

<評価委員の意見>

- 企画展開催事業の入館者数が約倍増ということで、企画が良かったということで、今後も期待しています。
- 論語についての記載がなかったが、継続して事業を実施していただきたい。
- 掘り起こした偉人の方々については、この方々の著作物、歴史小説が書かれた書籍等は意識して図書館に置くようにしていただきたい。

### 3. 自ら学びたくましく生きる力を育む学校教育を推進する

(1)小・中学校教育の充実

教職員がお互いに高め合うための研修の場の設定、多様な教育活動を可能にするための人員の配置、就学指導を含めた相談体制の充実、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の整備を図ります。

①教育内容の充実

●主要事業

◇小・中学校情報教育推進事業 (36,469,624円)

<事業概要及び実施状況>

情報教育に対応した学校教育を実現するための情報通信ネットワークを整備し、効率的・効果的に利用できる環境整備を図るためパソコン等の更新を実施しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
タブレットPCの導入数	導入数	台	10	10
更新整備台数	更新台数	台	105	148

<評価と課題>

年次計画で更新を行い、効率的・効果的に情報教育が行える環境を整備しています。平成26年度は767台中148台の更新を行いました。また、南犬飼中学校にタブレットパソコンを10台整備しました。機器の更新時には、新機種の導入を含め、情報機器を効果的に使用できるように機器の選定を行っていきます。

### <今後の方向性>

情報社会に対応した教育環境を整備するため、今後も計画的にパソコン等の更新を実施していきます。また、児童・生徒がネット犯罪やネットいじめに巻き込まれないように、ネット社会の危険性や情報モラルについて指導していきます。また、上記に対する教師のスキルアップを計るためネット犯罪に対する講習会を実施します。

### ◇小・中学校学力向上支援事業（68,194,158円）

#### <事業概要及び実施状況>

壬生町立小・中学校に学校教育支援員や教員助手、フルタイム・ティーチャーを配置し、少人数指導やT・T（チーム・ティーチング）による、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や基礎学力の向上を図り、多様化する学習内容等への対応を充実させるとともに、児童生徒に確かな学力を身につかせ、学力向上や学校生活支援等の指導を図っています。

#### 【用語解説】

##### ○学校教育支援員

学力向上支援員が、T・Tによる学力向上支援及び特別支援学級の児童生徒の学習支援や生活支援を行います。また、学校生活支援員が、発達障がいや身体的障がい等のために学校生活全般において常時支援が必要な児童生徒に対して個別の生活支援を行います。

##### ○教員助手

小学校の外国語活動の授業、中学校の数学・英語等の教科支援の授業及び、外国人等日本語指導が必要な児童生徒の支援を行います。

##### ○フルタイム・ティーチャー

複式学級において、複数教員による授業を行うことにより、通常一人の教師が2学年の授業を受け持つデメリットを解消し、学力向上を支援します。学年担任として正規の教員とほぼ同様の勤務態勢を執っています。

##### ○T・T（チーム・ティーチング）授業

学級数を超えた人数で行う授業。1学級を2名の教員で指導したり、2学級を3グループに分け、3名の教員がそれぞれ指導したりしています。

##### ○複式学級

小学校において、児童数が2つの学年で16人以下の場合（1年生を含む場合は8人以下）、中学校においては、生徒数が2つの学年で8人以下の場合、2つの学年で1学級となります。

##### ○外国語活動

小学校学習指導要領の改訂により、平成23年度から小学校5、6年生に義務化された、「外国語活動」や国際理解に関する学習において、外国語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をととして、コミュニケーション能力の素地を養います。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
学校教育支援員等の人数		人	34	35

### <評価と課題>

本事業は、児童・生徒に対して学習面や生活面において、実態に応じたきめ細やかな指導が可能な事業であり、その効果も認められるため継続していく必要がある。

保護者や地域社会からの教職員に対する要望・期待は益々多様化し、更なる繁忙化が想定されます。これらに対応し一層の学力向上、学習障がい等心身に障がいのある児童生徒への個々に応じた指導等や複式学級への対応を充実させるため、学校教育支援員等の配置並びに、優秀な人材の確保が必要です。

### <今後の方向性>

児童・生徒に対し、学習面や生活面において、実態に応じたきめ細やかな指導を行うことにより、その効果も認められるため、継続していく必要があり、確かな学力の保証に向けてさらなる連携の充実に努めます。

### <評価委員の意見>

○情報教育推進事業の今後の方向性について、学校の中で情報教育についてやっていると思うが、それ以外に町として何かをやらうとしているのか。具体的に何をなさっていかうとしているのか。

○パソコン更新は、基本的には限られた予算の中でやらなくてはならないので、その中で基本はこれだ、古くても仕方が無い判断をどこでするのか、どこがどの程度等、詰めておく必要があると思う。

## ②特別支援教育の充実

### ●主要事業

◇就学指導事業（86,840円）

#### <事業概要及び実施状況>

障がいがあるため、小・中学校の通常の学級では十分な教育効果を期待することが難しい児童・生徒に対して、どのように対応するか様々な情報を提供しながら保護者とともに考えます。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
就学指導委員会で審議した児童・生徒	審議した人数	人	60	68

### <評価と課題>

専門家（臨床心理士や小児科医）から助言を得て、対象児童・生徒にとって適切と思われる情報を提供しました。しかし、保護者の理解が得られず就学指導委員会の答申どおりの学級に入級しない児童・生徒も約40%程度いるため、就学前機関との連携を深め、障がいのある児童・生徒が最も教育的効果を得られる学級に入級出来るよう保護者とともに考え理解を得られるようにしていく必要があります。

### <今後の方向性>

保育園や幼稚園の訪問など、就学前機関との連携を深め子どもの状況を早めに把握し、適正な就学が図れるよう努めていきます。

＜評価委員の意見＞

○障がいの分類について数字で示せるなら、数字を出した方が良い。  
○障がいのある範囲が毎年広がっているが、どういう障がいの分類かという数字はもっていますよね。結構増えている数字は示せるのですか。数字は把握しておいた方が良いと思う。

③教育環境の整備・充実

●主要事業

◇小・中学校施設修繕及び改修事業(624,504,264円)

＜事業概要及び実施状況＞

安全で快適な学習環境の整備を図るため、学校施設の修繕・改修工事を行います。また、学校施設は災害時において地域住民等の避難場所の役割も果たすことから、防災機能向上のため「地震防災対策特別措置法」に基づき学校建物の耐震補強工事を実施し、平成26年度で全ての学校で耐震補強工事が終了しました。また、近年の猛暑に対応するため全ての小中学校の普通教室に空調機を設置しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
耐震化率	目標に対する達成状況	%	91.9	100
普通教室への空調機設置	実施した校数	校	0	10

＜評価と課題＞

平成26年度は修繕・改修工事を小学校46件、中学校28件実施しました。また、壬生中学校の管理特別教室棟、普通教室及び渡り廊下棟の耐震補強工事を実施し整備計画のとおり推進することができました。学校施設の耐震化率は100%となりました。

当町の学校施設は、建築から30年以上が経過し、老朽化が進んでいるので継続的な修繕・改修が必要となっており、それにかかる費用も増大しています。

＜今後の方向性＞

耐震化率は100%になりましたが、今後も児童・生徒の安全安心で快適な学習環境の確保のため、修繕・改修工事を効率的に行っていきます。

◇スクールランチサポート事業 (16,636,000円)

＜事業概要及び実施状況＞

平成23年度から、保護者の経済的負担軽減を図るため、児童・生徒（要保護・準要保護並びに就学奨励費補助受給者を除く）に対し、学校給食費（小学校

4,500円/月・中学校5,200円/月)の一部、月額500円(年額5,500円)を助成しています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
助成対象児童・生徒数		人	3,055	3,043

<評価と課題>

保護者の経済的負担の軽減が図られました。

スクールランチサポート事業について、給食費の上乗せ分ではないので、特別給食献立として補助事業金額がわかるように事業内容の検討が必要になります。

<今後の方向性>

今後、事業内容を検討し、子ども達の給食に繁栄されるような給食補助事業を検討していきます。

◇学校給食委託事業 (56,300,400円)

<事業概要及び実施状況>

平成20年度に壬生中学校、平成22年度には南犬飼中学校、平成24年度からは壬生小学校を民間業者委託へ移行しました。平成26年度からは、3年の長期継続委託により藤井小学校・稲葉小学校・羽生田小学校において3校まとめて民間業務委託へ移行しました。

各小学校において、1年生の保護者を対象にした食育に関する講話と、給食試食会を実施しています。また、学校によっては、招待給食として、PTA・高齢者・農業関係者を招いて給食試食会を実施しております。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値(累計)	
			平成25年度	平成26年度
学校給食調理業務委託校		校	3	6

<評価と課題>

学校給食調理業務については、平成24年度から長期継続契約による業務委託をすることができ、事務経費の節減ができました。また、調理員の急病等の突発的な事象にも迅速な対応がなされ、安全で安心な学校給食を効果的・効率的に提供することができました。

正規調理員の退職により、単独調理場の運営については、現状維持が難しく施設や調理方式など学校給食調理施設の集約化について検討していくことが必要となります。

<今後の方向性>

今後も計画的に民間業者委託への移行を図りながら、児童・生徒数の減少、施設の老朽化を見すえて整備した上で、学校給食の運営等について、方向性を調査・検討していきます。

◇学校生活問題対策事業（294,400円）

<事業概要及び実施状況>

学校生活における児童・生徒の意欲や満足感、及び学級集団の状態を計るためハイパーQ-U（心理）テストを小学校5年生、中学校1年生で実施します。また、食物アレルギー等の問題を抱える児童・生徒への教師の対応力向上のため各種講習会を実施します。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
ハイパーQ-U実施人数	実施人数	人	756	716
各種講習会実施回数	実施回数	回	2	1
講習会参加人数	参加した先生の数	人	100	30

<評価と課題>

ハイパーQ-Uテストを行うことで、表面上は問題を抱えていないように見える児童・生徒が実は支援を必要としているケースも発見でき、友人関係も分かることから問題を抱えている児童・生徒への早期対応が可能になりいじめ等の防止にも役立ちました。また、講習会については新たに食物アレルギーをもった児童が転校してきた安塚小学校で実施し、アレルギーに対する対応力が向上しました。

<今後の方向性>

ハイパーQ-Uテストは、児童・生徒の学校生活の満足度を測定するのに大変役立つので実施学年を増やせるよう要望していきます。

また、講習会については食物アレルギーのみでなく、Q-Uテストの効果的な活用のための講習会も行い、教師のスキルアップにつなげていきたいと思えます。

<評価委員の意見>

- アレルギーは本人、先生だけでなく周りの生徒にも知ってもらった方がよい。
- ハイパーQ-Uテストは何年生が必要なのか。いろいろな事件が起きているが学年は適正だったのか。
- テストについて、小学校と中学校の連携はどうなのか。申し送られていると考えていいのか。
- 個人の情報の伝え方を間違えない注意が必要である。
- 結果を知るのはすごく良い。5年生と中学1年生でやるのは別の意味で教育のいろいろな事にデータがリンクして成績もでる。

④相談体制の充実

●主要事業

◇教育相談員配置事業(9,061,961円)

<事業概要及び実施状況>

不登校などの問題を抱えている児童・生徒の保護者や学校などからの教育相談・適応相談に対応するため、教育相談員4名を配置し必要な助言や指導を行っています。また、適応指導教室ひばりは不登校児童・生徒の貴重な学力保証の場にもなっています。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
相談件数	電話・来所件数	件	320	646
復帰者及び高校進学者	復帰者及び高校進学者	人	1	7

<評価と課題>

不登校児童生徒の学校復帰の支援、学力保証の場を確保するとともに、発達障がいのある子どもの保護者からの相談体制などを確立することができました。発達障がいのある子どもは早期に発見し適切な指導をすることで症状がめざましく改善されるため就学前機関を訪問するなど早期発見・早期指導が出来る体制を整えます。

<今後の方向性>

不登校児童・生徒の家庭及び学校からの教育相談及び適応相談に対し、適切な助言や指導を行い、早期の学校復帰を促していきます。また、就学前機関と連携をとり、発達障がいのある子どもの早期発見、指導に努めていきます。

⑤幅広い学びの充実

●主要事業

◇マイ・チャレンジ推進事業(704,300円)

<事業概要及び実施状況>

地域における人との関わりを主とした社会活動を通じて、共に生きる心や感謝の心を育むため、仕事の大切さを教えるため、中学校2年生を対象に実施しています。また、社会体験活動を通して地域を愛し、地域から愛される人間を育成します。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
社会体験事業所数	事業所数	社	107	113

<評価と課題>

直接的な社会体験を通じて、自己の生き方、勤労の尊さを感じとらせることができました。また、様々な職業に対する考え方や学習の必要性を理解するなど、生徒の意識が高められました。できるだけ多くの職種・事業所で活動できるとよいが、個人情報等の問題で協力してもらえない職種もあります。

#### <今後の方向性>

職場体験学習は、生徒の成長段階に応じた勤労観や職業観の育成に大いに役立つので今後も継続的に実施していきます。

#### ◇宿泊体験活動推進事業(1,620,000円)

##### <事業概要及び実施状況>

小学校5年生を対象に、海にかかわる自然にふれながら、児童が集団で宿泊し、自然体験をはじめ共同生活体験、社会体験など、学校外の生きた教材や生活場面での直接体験を通じて、生きる力を育めるよう、宿泊体験活動推進事業を実施しております。学校教育の充実を図るため、事業経費のうち、貸切バス借り上げ料を町が負担しています。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
宿泊体験活動バス借り上げ校	小規模校においては隔年	校	6	8

##### <評価と課題>

普段海に接することの少ない子どもたちが、とちぎ海浜自然の家に宿泊しながら海の自然や海にかかわる産業・文化などに触れ、自然体験活動が充実し、心の教育が推進されました。

貸切バス料金の新たな運賃・料金制度により借上げ費用が上がり貸切バス代の増のため、今後バス代の受益者負担分について検討していく必要があります。

##### <今後の方向性>

今後も安定して宿泊体験活動推進事業を実施するため、バス借上料の保護者負担について検討していきます。

##### <評価委員の意見>

○マイ・チャレンジ事業は、事業とすると有意義なことである。

○教育相談対策について、非常に重要になってくるので、活躍されているのが実感できるような表現の仕方できたらお願いします。

## 4. すべての住民が競い、触れあい、スポーツを楽しむ環境を創る

### (1)生涯スポーツの普及促進

スポーツは単に競技を行う人だけに関わるものではなく、近年は、スポーツを通じた健康の保持増進や地域社会の再生など、すべての地域住民への関わりを求められようになってきました。

生涯スポーツの推進を図るため、講習会や研修の開催・参加により、スポーツ推進委員などの人材の育成・確保を維持するとともに、総合型地域スポーツクラブの運営支援を継続して行います。



また、スポーツ施設の維持管理に努めるとともに、新体育館の整備に向けた検討を推進します。

①人材・団体の育成

●主要事業

◇スポーツ振興助成事業 (2,054,000円)

<事業概要及び実施状況>

スポーツ活動を振興し、町民の健康の増進などを図るとともに、指導体制の確立に活躍している壬生町体育協会(各専門部及び壬生町スポーツ少年団)に補助金を交付し、各種競技スポーツ団体の大会開催や教室等の活動支援を行っています。

また、スポーツ全国大会等出場者(個人・団体)に激励金を交付し、その成果を称えるとともに、総合運動場体育館内に国体出場者名簿一覧を掲示したり、体育協会では全国大会等の出場者を表彰したりして、広く町民にスポーツの意識の高揚を図り本町のスポーツの振興に寄与することができました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
スポーツ団体の大会開催数	体協専門部主催の大会	回	43	43
全国大会等出場者数	激励金交付者数	人	98	97
スポーツ少年団指導者登録数	スポーツリーダー登録数	人	41	41

<評価と課題>

体育協会の活動を支援し、町民スポーツ意識の高揚を図るとともに、競技スポーツの質の向上、スポーツ参加の促進、指導体制の確立を図るため補助金を交付し、各種競技団体が活動し多くのスポーツ愛好者が参加できました。

また、全国大会等の出場者には、激励金を交付し支援を行いました。

少子化が進んでいますので青少年が参加しやすいスポーツ少年団の形成が必要であると思われま。

<今後の方向性>

栃木県の国民体育大会が2022年(平成34年)に開催されますので、体育協会の機能を強化し、競技スポーツの推進を図りたいと考えています。

また、全国大会等の出場者には引き続き支援を行い、競技レベルの向上を図るとともに本町のスポーツ振興を推進します。

<評価委員の意見>

- スポーツリーダーの登録条件等について記入してほしい。
- 全国大会等の入賞者数について記入してほしい。

◇栃木県郡市町対抗駅伝競走大会出場事業 (892,500円)

<事業概要及び実施状況>

壬生町としての単独チームは平成22年度から参加しています。

本大会に向け、29名の強化選手が監督を中心に強化練習会を町の陸上競技場などで行ないました。また、レース感覚を養うために他市町のマラソン大会

にも出場し選手の強化を図っています。中学生の強化選手については、中学校から推薦された選手を指定しています。

また、平成25年度から町内の各小学校から選手を募集し栃木県小学生駅伝競走大会にも出場しています。平成26年度は44名が参加し3チーム出場しました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
郡市町対抗駅伝選手数	登録人数	人	23	29
郡市町対抗駅伝競走大会順位	参加チーム数 30チーム	位	28	28 (2チーム失格)
小学生駅伝選手数	登録人数	人	20	44
県小学生駅伝競走大会順位	参加チーム数 42チーム	位	Aチーム10 Bチーム29	壬生スカイ10 壬生トライ24 壬生ミライ31

### <評価と課題>

平成26年度第56回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会は30チームが参加し28位(2チーム失格)でしたが、タイムは前回の大会に比べ約10分短縮することができました。

壬生町単独チームのため選手の層を厚くすることは簡単にはいきませんが、中学校や体育協会だけではなく企業等とも連携を図り選手強化に努めていく必要があります。

また、町の広報紙やホームページ等で強化練習会や大会をPRし、町全体としての盛り上がりを図り駅伝経験者を発掘する必要があります。

### <今後の方向性>

栃木県郡市町対抗駅伝競走大会は、一つ上の順位を目指すため駅伝経験選手の発掘をすすめ、強化練習を多く積みます。

また、栃木県小学生駅伝競走大会は、郡市町駅伝競走大会に繋がるような選手の育成にも期待できますので、今後も小学生を対象とした練習会を開催し、選手の強化・育成を図ります。

## ②地域型スポーツの推進

### ●主要事業

◇総合型地域スポーツクラブ事業 (2,000,000円)

#### <事業概要及び実施状況>

平成23年2月に設立し4年目を迎えたゆうがおスポーツクラブの基本理念である「みんなで、汗を、ふれあいを！」に基づき、スポーツを体験・修得できる、各種教室及びイベント等を開催しています。

平成26年度は、ジュニアサッカーや健康体操など生涯スポーツ教室が23教室とハイキングなどのイベントを4事業開催し延べ10,254人が参加しました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
会員数	登録者数	人	601	595
教室・イベント数	教室・イベント数	個	27	27
教室・イベント等延べ参加者	参加者数	人	9,828	10,254

<評価と課題>

スポーツには体力の向上や生活習慣病の予防など個人に関すること以外に、青少年の健全育成や地域住民の交流などを深める効果があるとされています。ゆうがおスポーツクラブでは、子どもから高齢者までが参加できる各種教室及びイベント等を開催し、世代を超えた交流が図られています。また、教室に参加することにより日常的に身体を動かす機会が増え、子どもの体力向上や高齢者の健康保持増進に大きな役割を果たしています。ゆうがおスポーツクラブの運営は、受益者負担が基本であり、会員からの会費(年会費等)が主な財源となるため、会員の確保が最大の課題となっています。

<今後の方向性>

ゆうがおスポーツクラブを魅力あるクラブとするためにも、各種目に応じた質の高い指導者により適切な指導を受けられることや、学校運動部と連携・協力がとれ子どもたちに多様なスポーツ環境を提供できるようにすることが求められます。

③スポーツ施設の充実

●主要事業

◇ふれあいプール改修等工事 (3,025,080円)

<事業概要及び実施状況>

プール利用者の快適性を高めるために流水プールのろ過機ろ材の交換などを行いました。不純物がろ過されるために水質が良くなり利用者が安心して利用できるようになりました。

<事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
入場者数	プール入場者数	人	63,258	49,676

<評価と課題>

営業期間中は業務委託により運営しており大きな財政負担がかかります。平成26年度については管理運営費用の削減を検討し、7月の第2土曜日から第3土曜日に変更し、小中学校の夏休みからの営業開始としました。その結果、管理運営費用などの経費が削減できました。しかし、台風や低温の影響を受け入場者数は平成25年度に比べ減少いたしました。

築後約30年を経過しているため施設の老朽化が目立ってきており、安全で衛生的な施設の維持管理が求められています。

＜今後の方向性＞

今後も計画的・効果的な改修を行い、安全で快適な施設の維持管理に努め、利用者の安全性を図ります。

(2)幅広い町民スポーツの振興

住民ニーズに対応するスポーツ・レクリエーションイベントや各種大会を開催し、住民のスポーツ参加機会の拡大に努めます。

①スポーツ参加機会の拡大

●主要事業

◇ゆうがおマラソン開催事業

(6,079,020円 (内スポーツ振興くじ助成金4,000,000円))

＜事業概要及び実施状況＞

平成26年度の「第3回壬生町ゆうがおマラソン大会」は、ゲストランナーに「高橋尚子」さんをお迎えし、10kmコースを含めた16種目で実施しました。

参加者は県外からの申込者295名を含め2,545名となり申込者数を更新しました。

＜事業実績＞

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
大会申込み者数	エントリー数(幼児を除く)	人	2,381	2,545

＜評価と課題＞

参加者の感想では、ゲストランナーの好印象が大きく、また、コースの設定も好感を持たれているようです。

壬生中・南犬飼中学生等の給水所におけるボランティア活動や、壬生高校生ボランティアのカミナリ汁の配布等もランナーから大変喜ばれました。また、町内のボランティア団体が協力して模擬店を出店したり、壬生町の特産物のいちごを活用したジュースやみぶ菜料理を提供したりできました。

昨年に引き続きおもちゃ博物館の入館割引を実施し、町の観光資源をPRすることができました。

＜今後の方向性＞

スポーツを通じた人と人の交流及び地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成することで地域社会の再生に貢献します。

また、マラソン大会を通じて壬生町の地域資源を積極的にPRしていきます。

5. 青少年が健やかに育つ社会を実現する

(1)家庭教育の推進

子育ては、親が親としての責務を十分に自覚し、優しさ、暖かさ、厳しさをもって子育てを担っていくことが必要です。

幼少期や思春期などの子どもの発達段階についての理解や親としての関わり方を学ぶため、様々な機会を活用した講座を開催し、家庭教育力を充実させていきます。

## ①家庭教育の充実

### ●主要事業

#### ◇家庭教育推進事業

##### <事業概要及び実施状況>

家庭の教育力の低下や子育ての密室化等が指摘されている今日、保護者が子育てに必要な素養を学んだり、保護者どうしゆるやかにつながりあったりすることを目的とした「子育て・親育ち講座」を開催しました。実施の方向性は、庁内関係部課局職員や地域住民等で構成する家庭教育支援実行委員会において協議し、講座の企画運営は、家庭教育支援チームが担いました。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成 25 年度	平成 26 年度
小中学校子育て・親育ち講座の参加率	対象保護者数に対する参加した保護者の割合	%	64.1	72.2
子育て・親育ち講座の開催数		回	47	48

##### <評価と課題>

仕事等を抱えて多忙な生活を送っている保護者に対しても学習機会が提供できるよう、保育園・幼稚園、小・中学校、各地域団体等と協働し、様々な機会を利用して全講座を開催しました。保護者のニーズに沿った講座の企画立案を特に重視しました。

また、平成 26 年度は、こども未来課との協働による講座を 11 講座開催し、266 名の参加がありました。

講座は主に母親が参加することが多く、父親向けの講座として、平成 26 年度に新たな企画事業として、「子育てに励む父親を対象とした講座」を実施しました。開催数は、1 講座で、16 名の参加がありましたので、今後、講座数を増やしていきたいと考えております。

中学生向けの講座として、「未来の親となる中学生を対象とした講座」を 2 講座、開催し、36 名の中学生の参加がありました。うち 1 講座は子育て支援センターと連携し、中学生が命のかけがえのなさや将来の自分を見つめる機会となるよう、赤ちゃんとの交流体験を新に実施しました。

今後も、母親、父親、中学生および青少年向けと多様な講座の開催を推進する必要があります。

##### <今後の方向性>

講話型とワークショップ型を併用しながら、保護者がその教育力を高めていけるような講座になるように、家庭教育支援チーム員とともに講座の内容を検討して参ります。

##### <評価委員の意見>

○「未来の親となる中学生を対象とした講座」は、中学生と赤ちゃんがふれあうことは良いことであるし、新聞報道されたことは良いと思います。今後も、是非、新聞報道を活用するなど、広報活動の充実を図っていただきたい。

## (2)青少年活動の推進

青少年が健やかに育っていく過程では、社会性は人々との関わりの中から、意欲は物事に能動的・積極的に取り組む中から培われており、それらを育むためには、様々な体験活動を提供することが必要です。

そのため、各種団体の活動を支援し、青少年の体験学習や交流事業を推進していきます。

### ①青少年活動の充実

#### ●主要事業

◇青少年活動推進事業(558,286円)

##### <事業概要及び実施状況>

青少年が薬物や有害サイトの危険から自身を守り、犯罪に手を染めない様に啓発する標語を町内の中学2年生から募集し、いろいろな場面での啓発に活用しました。

少年犯罪等を未然に防止するため、PTAや町内関係団体で構成する青少年健全育成実施委員会が定期的な街頭指導パトロール、有害図書自販機撤去運動等を行っています。

また、社会の構成員としての責任を自覚してもらうために成人式を開催しました。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
成人式の出席者	成人式の出席者数	人	294	282
成人式の出席率	成人式出席者数/成人者数	%	80.8	77.5

##### <評価と課題>

成人式は、新成人が企画・運営にあたっており、中学生ボランティアが受付等に協力して式典を開催しております。

また、町内の中学2年生より青少年健全育成標語を募集し、優秀な作品を選出して、バンドフェスタで表彰式を行い、各種イベント等の会場で啓発活動を行いました。

##### <今後の方向性>

今後も、成人式は、新成人の自主的な企画・運営で行っていきます。

また、青少年を健全に育成を図るため、環境浄化や啓発活動を推進して参ります。

◇みぶホリデーアクションプラン(519,696円)

##### <事業概要及び実施状況>

子どもたちに豊かな体験活動を提供する、児童文化教室(宿泊研修、ドッジボール大会、カルタ取り大会)を開催しました。

子ども遊び学び塾は、ボランティアの協力を得て、5つの小学校で土曜日の体育館で開催し、延べ153名の参加がありました。

また、親子のふれあいをテーマにする家庭の日事業(親子ふれあう自然観察会)を開催しました。

##### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値
-----	--------	----	-----

			平成 25 年度	平成 26 年度
児童文化教室参加者数	延べ参加者数	人	310	298

#### <評価と課題>

児童文化教室のうち、宿泊研修では、野外調理をしたり、キャンプファイアをしたりして、共同生活を通しての普段、体験することのできない貴重な機会を提供することができました。

また、ドッジボール大会では、単位育成会の枠をこえた広域チームの編成で地域の枠をこえた交流の場を提供することができました。

カルタ取り大会では、中学生ボランティアや高校生ボランティア等との交流をすることができ、幅広い年齢層との交流の場を提供することができました。

今後も児童文化教室は、子どもたちへの体験活動の場を提供することが重要であり、また、地域の枠をこえた子どもたちの交流の場として効果的であることから、今後も継続して実施していきます。

一方、子ども遊び学び塾では、ボランティアスタッフが減少しており、スタッフの確保が課題となっております。

#### <今後の方向性>

本事業は継続して実施していきますが、今後は、ボランティアに興味のある方をスタッフに勧誘し、世代間交流を促進する事業として推進を図ります。

## 6. 共同参画社会の確立を目指し、個人・個性を尊重する

### (1)男女共同参画の推進

住民と一体となって総合的に男女共同参画社会の実現に向け、「壬生町男女共同参画プラン」を住民と協働で推進し、性別にとらわれず個人が尊重され、能力が十分に発揮できるまちづくりを目指します。

#### ①推進体制の整備

##### ●主要事業

##### ◇女性活動推進事業(607,564円)

#### <事業概要及び実施状況>

男女共同参画プランを推進するため、男女共同参画講演会では「倉田真由美」氏による『くらたま流 スッキリ生きる方法』の講演を行いました。講演のほか、男女共同参画推進委員による寸劇や女性団体連絡協議会会員による座談会等有益な講演会を実施することができました。

講演会の周知が充分でなかったため、参加者が少数との結果になり、周知方法等を検討する必要があります。

また、女性の登用を推進するために、関係各課に各種審議会等の委員に女性の登用を図るように働きかけを行いました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	県計	壬生町
地方自治法に基づく審議会等委員の女性登用比率	女性委員数÷総委員数×100(H27.4.1現在)	%	27.4	27.8

一般行政職の管理職在職状況	女性管理職員数÷管理職総数×100(H27.4.1現在)	%	10.2	22.2
---------------	------------------------------	---	------	------

<評価と課題>

男女共同参画計画の推進や女性リーダー等を育成することで、各種審議会や委員会への参画が推進され、男女がお互いを尊重しつつ共に協力し支えあいながら、家庭生活とその他の活動を両立できるような社会づくりの形成を啓発しました。壬生町における一般行政職の女性の管理職登用率は22.2%で栃木県平均10.2%より高い登用率となっております。

<今後の方向性>

男女が共に家庭や地域、職場など社会の様々な場面で輝けるように個性や特性を尊重し、社会の対等の構成員として政策等に参画できるよう啓発をして参ります。

<評価委員の意見>

- 男女共同参画社会の推進の成果は、長い目でどう変化していくかを見ていかななくてはいけないのではないかと思います。評価することは難しい事業とは思いますが。
- 講演会後にアンケートをとり、意識調査をする等が良いのではないかと思います。

## 7. 国際理解を促進し、交流活動を推進する

### (1)国際理解の促進

国際社会の一員として、互いの文化や生活習慣を理解し尊重しあえるよう、国際交流協会などによる民間交流事業を支援します。

また、本町に居住する外国人のために、安心して生活ができるよう医療・福祉・生活環境などの情報提供を図ります。

#### ①外国文化への理解の促進

##### ●主要事業

◇外国語指導助手配置事業（10,471,680円）

##### <事業概要及び実施状況>

平成23年度から民間委託の外国語指導助手（ALT）を3名配置し、ALTを各中学校に週4日、各小学校には週1日派遣し、それぞれの学年に応じた国際理解教育や英語学習の一層の充実を図りました。

小学校では、小学校学習指導要領の改訂により平成23年度から義務化された「外国語活動」や国際理解に関する学習において、外国語を用いて、互いの思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験できるような活動をとおして、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校では、英語科の授業において、実践的なコミュニケーション能力の基礎を養う等、外国語教育の促進を図りました。

また、ALTを活用したイングリッシュ・プログラムを年2回実施し、小学校4年生から6年生を対象に希望者を募り、「まる1日英語で過ごそう」事業とし



て、ALTと英語で活動しながら、外国語によるコミュニケーション能力の素地の向上を図りました。

#### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
ALTの児童生徒1人あたりの事業費	総事業費/児童生徒人数	円	3,114	3,202
イングリッシュ・プログラム	参加人数	人	42	53

#### <評価と課題>

国際化の中、外国人による生きた英語による授業により、語学学習の意欲が高まるなど外国の文化などへの興味・関心を深めることができました。

ALTを通して小学校低学年のうちから英語に触れ合うことができコミュニケーション能力向上に繋がり、児童生徒が異文化に触れる経験をとおして、豊かな語学力を身に付けられる異文化体験を積むことが図られました。

優れたALTを活用して、それぞれの学年に応じた外国語指導や国際交流活動等より効果的な授業改善が必要になります。

#### <今後の方向性>

知識・経験のあるALTの採用ができるよう委託業者の見直しを検討していきます。

また、イングリッシュ・プログラム事業についても、英語で活動しながら外国語を用いた楽しさが体験できる事業として、引き続き実施していきます。

#### <評価委員の意見>

○質の良いALTを確保するためにも、システムを作ってALT本人の面接をするチェック機能があるだけで違い、会社が良い人材を出してくるので、システムをお願いしたい。

## (2)国際交流活動の推進

若い世代から豊かな国際感覚を身につけるため、中学生海外派遣事業を実施するとともに、町の国際交流推進の中心となる壬生町国際交流協会活動への積極的な支援を実施します。

### ①交流活動の支援

#### ●主要事業

◇中学生国際交流推進事業（9,110,749円）

#### <事業概要及び実施状況>

本事業は、平成10年度から実施しており、平成26年度は17回目です。壬生町中学生海外派遣団として8月9日から8月17日の9日間、町内在住の中学校第2学年生徒20名をオーストラリア・シドニーに派遣しました。ホームステイによる外国人家庭での生活や現地中高生との交流、現地の語学学校での研修を行ないました。

### <事業実績>

指標名	指標の考え方	単位	実績値	
			平成25年度	平成26年度
参加者一人あたり事業費	総事業費/派遣団員数	円	476,231	504,456

### <評価と課題>

ホームステイしながら、公共交通機関を利用して現地語学学校に通学したり、現地中高生と日本文化がわかる習字や折り紙、メンコなどを通して異文化交流をすることができました。また、この体験を通じ、外国の風土・文化・人々との異文化体験学習から学ぼうとする意欲や実践力を、また語学力の向上と国際性豊かな感覚を身に付け国際的視野の拡大と国際協調の精神を養う事が図られました。

事業費が年々上がっているため、今後も自己負担額について検討していく必要があります。

### <今後の方向性>

中学2年生の代表として体験したことを周りの人々に伝えていければ良い事業となり、参加した経験を今後の自身の夢につなげていけるような人材の育成を図るためにも、継続して実施していきます。

### <評価委員の意見>

- 個人負担について、家庭の事情は配慮していないのですか。
- 犯罪・地震などの自然災害に対する準備等について事前教育をきちんとして、派遣して下さい。